

| | 評価指標 | 学校の自己評価コメント | 自己 評定 | 学校関係者評価コメント | 関係者 評 価 |
|-------------|----------------------------------|---|----------|---|------------|
| 体力の向上と食育の推進 | 自分の目標に向かって、困難にくじけず最後までやり抜く子どもの育成 | <p>体力テスト判定結果 (25名中) A:13名 B:6名 C:3名 D:3名 E:0名</p> <p>体力テスト結果は、A判定が全校児童の半数を占めるなど非常によい結果が出ています。児童のもつ能力に加え、体育科での取組の工夫や外遊びの奨励等が効果を上げているものと思われま。次年度は、課題となっている柔軟性や瞬発力、走力の向上を目指して、取組の工夫を行います。</p> | 2.7 | <p>昨年度はA判定が5名だったが、本年度は13名となり、学校の指導の工夫と努力がうかがえる。また、体力のある高学年児童と低・中学年児童と一緒に外遊びをする環境がよい結果につながっているのではないかとと思われる。</p> <p>今後も、D判定の児童をC判定に近づけられるように、同様の取組を継続してほしい。</p> | 3.3 |
| | | <p>10時前就寝～84% むし歯の治癒率～67% 全員出席日～73% (135日/186日)</p> <p>本年度の毎月の実態調査で課題して挙げられたのが「就寝時刻」と「歯みがき」の項目です。「就寝時刻」については、全校朝会等で養護教諭が睡眠の大切さについての講話を行い、担任の日常指導で改善が図られてきました。ここには、メディア利用の問題点も関わるのではないかととらえています。「歯みがき」については個別指導を行うとともに、「むし歯治療」の家庭への啓発を続けてきましたが、家庭によっては諸事情により治療に前向きに取り組めない状況もうかがえます。</p> <p>児童の出席率については、担任の声かけや配慮等で、昨年度に比べて連続して欠席する児童が少なくなってきました。</p> | 3.1 | <p>スポーツ少年団に所属している児童も多い中、10時就寝の目標達成率が比較的高いのはよい傾向であると思われる。学校からの指導や家庭の啓発により、向上が図られている。</p> <p>基本的には、家庭が中心となって取り組むべき項目であるので、今後もいろいろな場面での「声かけ」を重視しながら、参観日やPTA総会等を利用して、これまで以上に保護者への啓発を図ってほしい。</p> | 3.2 |
| | | <p>朝食摂取率～94%</p> <p>北方中の栄養教諭との連携を図った食に関する指導を計画的に実施しています。朝食摂取率100%とその内容の充実を目指して保護者への一層の啓発を図っていきたいと考えます。</p> <p>「弁当の日」の取組に関しては多少マンネリ化がうかがえたので、3学期の取組には工夫を加えました。</p> | 2.7 | <p>朝食についても、上記と同様に家庭における取組が重要となってくるので、参観日やPTA総会等を利用して、保護者への啓発を図ってほしい。</p> | 3.0 |

| | 評価指標 | 学校の自己評価コメント | 自己 評価 | 学校関係者評価コメント | 関係者 評価 |
|---------------------|-------------------------------------|---|----------|--|-----------|
| 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成 | 善悪の判断ができ相手の立場を考えた言葉遣いや行動ができる子どもへの育成 | 学校のきまり 7月の段階では、学校のきまりや約束を破った事例が少し見られたので、児童の自己評価が低かったのですが、集団下校時等の継続的な指導により改善が図られ、評価も上がりました。全体的にきまりよい学校生活を送っている姿がうかがえます。 | 3.1 | 学校のきまりを守ることは、将来、社会人としての生き方にもつながる基本的なことである。今後も継続的に指導の徹底を図ってほしい。 | 3.4 |
| | | 元気のよいあいさつ 児童の自己評価と比較して、職員の評価は少し低くなっています。学校でのきまった場面でのあいさつはできますが、「自分から進んで」や「どこでも誰にでも」という点で今後、家庭や地域と連携した取組を工夫していきたいと考えます。 | 3.0 | 全体的に元気なあいさつができてきているように思えるが、「積極性」「自分からすすんで」という点においては課題がある。上記と同様に、あいさつは社会人になっても基本的なことであるので、学校でも家庭でも指導してほしい。 | 2.8 |
| | | 事故ゼロ非行ゼロ不登校ゼロ 事故や大きな問題行動、不登校傾向の児童は見られません。家庭の協力、地域の方々の見守りがあってこそよい状況であると考えます。しかし、交通安全に関わる「飛び出し」「自転車の乗り方」において危ない事例があり、個別指導、全体指導を行ったことがありました。 | 3.1 | 登下校時にそれほど問題は見られないが、下校後や休日等の時間帯での交通ルールの遵守について気になる所が見られる。児童は、交通量の少ない地域での生活に慣れているため、家庭でも学校でも自転車の乗り方や飛び出しについての指導の強化を図っていく必要がある。 | 3.0 |
| 基礎基本の定着と学力の向上 | 読む・書く計算する力を身に付けた子どもへの育成 | 市学力テスト (GRT: 80点以上) 国語42%(11名)算数54%(14名) 12月に市全体で行われた学力テストにおける国語・算数は、上記のような結果でした。学年が上がるにつれて、80点以上の達成率は両教科とも低くなる傾向にあり、学習の定着の個人差も明確になる状況がうかがえます。 本校は3年生以上が複式学級になることから、職員も学力向上に向けての取組を課題としてとらえており、その結果、自己評価も低くなっています。指導形態や指導方法の工夫・改善を図るとともに、家庭学習の充実に向けて一層の取組の充実を図っていきたいと考えます。 | 2.6 | 学力の定着には個人差が見られるようであるが、国語・算数とも80点以上55%の到達を目指して、学習指導を行ってほしい。 複式学級を有する小規模学校であるので、先生方の指導や取組の工夫次第で、児童の学力は大きく変わっていくのではないかと思われる。「金谷小らしい教え方」を追求しながら、今後、一層の学力向上を目指してほしい。 | 2.8 |

| | 評価指標 | 学校の自己評価コメント | 自己 評価 | 学校関係者評価コメント | 関係者 評価 |
|---------------|--------------------|--|----------|--|-----------|
| 基礎基本の定着と学力の向上 | 豊かな表現力を身に付けた子どもの育成 | 五七五週間での俳句づくり 月に一度「五七五週間」を設定し、それぞれの季節の風景やその時々の児童の感じたことを俳句に表し、互いに鑑賞し合う取組を続けてきました。本年度の神戸雄一詩碑際コンクールでは、特選他多くの入賞を果たすことができました。 | 3.3 | コンクールでの入賞など、学校での日頃の取組が、素晴らしい成果につながっている。今後も取組を継続してほしい。 | 3.7 |
| | 伝え合う力を身に付けた子どもの育成 | 「進んで伝える」児童の育成 本年度は、「コミュニケーション能力の向上」をテーマとした校内研究を推進し、表現技術の向上や表現する場の設定の工夫等の取組を展開してきました。成果として、人前で積極的に自分の考えを伝えようとする児童が多く見られるようになりましたが、次年度も継続した取組が必要であると考えます。 | 3.3 | 少人数での学校生活に慣れているため、中学校進学後の多人数集団におけるコミュニケーションに不安がある。スポーツ少年団や習い事等で他校の児童とかかわりのある児童もいるが、今後も学校における様々な取組でコミュニケーション能力の向上を図ってほしい。 | 3.5 |
| | 読書が好きな子どもの育成 | 年間読書冊数 低50・中60・高70冊 ～目標達成率100% 読書指導担当の工夫や市立図書館、巡回学校図書司書との連携により児童の読書意欲を高める取組を展開してきたことにより、年間読書冊数の目標にすべての児童が到達することができました。また、本年度より保護者の方による読み聞かせも始まり、次年度に向けても一層の取組の工夫を重ねていきたいと考えます。 | 3.3 | 全児童が目標達成できたということは学校の指導の成果であると思われる。保護者の読み聞かせもよい取組である。 今後は、読書の「質」の向上も目指して、指導や取組の継続をしてほしい。 | 3.7 |

評価スケール 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する
○ 上記のスケールで自己評価を実施しました。

総括

本校における1年間の教育活動において、これまで述べてきたような成果や課題が見られた。また、本年度は、保護者や地域の方との連携により、「浜っ子応援隊」による親子体験活動の充実も図ることができた。次年度は、前述の課題をもとに、以下のような点について、一層の取組の工夫・改善を図っていきたい。

- ・ 基礎学力の向上
- ・ 「話すこと」「書くこと」を中心とした表現力の向上
- ・ 基本的な生活習慣の定着
- ・ 生活安全、交通安全指導の推進
- ・ 防災教育の推進

総評

学校全体での取組や指導により、子どもたちの成長において様々な面でよい効果が出ていると思われる。「小規模校ならではの活動」を展開しながら、さらに子どもの成長の手助けをお願いしたい。

また、今、子どもたちにしっかりと身に付けてほしいことは「あいさつ」である。進学や将来を見据えて、人とのコミュニケーションに不安を感じないように、今後、学校や家庭において様々な対策を講じていく必要がある。